

# BCPの時こそテレワーク！

## リコーITソリューションズ株式会社

### ■ 貴社のBCPの時の対策について教えてください。

#### ◆働き方変革のコンセプトとテレワーク

私たちは、リコーグループ全体で「一人ひとりがイキイキと働き、個人およびチームとして最大のパフォーマンスを発揮し、新たな価値を生み出し続けることができる働き方を実現する」ということを目指し、2017年度から働き方変革に取り組んでいます。その中で、IT技術者集団であるリコーITソリューションズでは、社員全員を対象として、最大週4日までテレワークを認める（週1日は所属オフィスに出社する）という、リコーグループの標準ルールよりも先行したルールで、テレワークを本格的に実践しています。

#### ◆マネージャが自ら経験することでテレワーク実践のさらなる拡大へ

2017年上期には、マネージャ向け座談会を開催し、テレワーク実施にあたっての不安の共有やルールについてディスカッションしました。さらに、全マネージャに2017年6～8月の期間中に1回以上、必ずテレワークを実践してもらうことで、マネージャが自身で体感しテレワークを実施する社員の気持ちを理解する、個人とチームのバランスをとったテレワーク実践計画を立てることに取り組んでもらい、テレワークを特別なことではなく、いざというときにすぐにテレワークを活用できる環境を整えました。

#### ◆BCP対策を意識したテレワーク環境の整備

社員が安全にテレワークを実施できるよう、自宅等でのテレワーク時の執務環境をガイドにまとめて発行。テレワーク利用を登録制とすることで、環境をあらかじめ整えておき、いざというときにも、問題なく利用できるよう準備しています。それにより、台風や大雪などの悪天候時には無理に出社することなく、「自らが最適な働き方を選択する」ということを実現しています。

### ■ どんなBCPの状況の時にテレワークを実施しますか？

北海道から九州まで、全国に8つの拠点を持つリコーITソリューションズでは、通勤時間が長い・通勤電車が混雑している等、通勤負荷の高い首都圏や都市部では、もともとテレワークの活用が進んでいました。それに加えて、近年増加している台風や大雨、大雪により通勤が困難になる状況が地方拠点でも発生しており、BCP対策として事前にテレワーク利用環境を整え、いつでもテレワークを利用できる状況にしておくという社員が増えています。利用登録率は、首都圏と地方拠点での差が縮まってきています。

特に台風や大雨、雪などの自然災害で公共交通機関に乱れが見込まれる際には、「明日はテレワークにします」と前日のうちに上司やチームメンバーと共有して、各自がノートPCを持ち帰り、自宅での業務を行っています。

また、障がいを持つ社員やシニア社員も同様に、テレワークを活用して、悪天候時にも自宅で安全に勤務し、通勤負荷の軽減ができるようにしています。現在、障がいのある社員の26%、シニア社員の50%以上がテレワークを活用しています。

■事前に周知などアナウンスしていますか？それとも自己判断で実施するのですか？

災害時や台風や大雨・大雪などにより、通勤時間帯に交通機関の乱れや見込まれる場合には、社員の安全を最優先として社内ポータルや災害対策連絡システムを利用して、担当部門から事前に案内を発信しています。

最近では、2019年9月の台風15号の際に、大手鉄道会社が週明け月曜日に計画運休を実施。金曜日に社内ポータルおよびメールにて会社としての対応方針を連絡、さらに、最新の状況を見ながら前日夜のうちに災害対策連絡システムを利用して、改めて対象エリア勤務社員全員へ『翌日月曜日の勤務については、「午前中の自宅待機」および「テレワークの活用」とする』旨、メール通知を実施しました。その結果、多くの社員が台風に備えて事前に自宅にノートパソコンを持ち帰り、テレワークを利用して自宅から通常業務を行いました。交通機関の混雑と混乱を回避して、各自が安全に業務を継続することができました。

■どうしても会社へ行かねばならない場合はどのように対処していますか？

新たな働き方の実現にあたって、Anytime, Anywhere, Any Device コンセプトのもと、総合的にIT環境を再構築しました。テレワーク時にもオフィスと同等の勤務ができるように、カメラ付きで遠隔会議ができるノートパソコンを一人一台貸与し、すべての業務情報にアクセスできる環境をクラウドとVPN接続などで実現しています。更に首都圏ではスマートフォンを配布することで、パソコンがなくても社外で仕事ができる環境を整備しています（地方拠点にも順次配布予定）。コミュニケーション面では、Office365を中心とした、オンライン会議、チャット、SNS、メールなどのコミュニケーションシステムを充実させており、社内会議もオンライン会議が原則となっていますので、会議のためにオフィスに出社する必要はなく、どうしても会社に出社しなければならないという状況を極力減らしています。

特に災害時や出社・帰宅困難が予想される場合には、社員の安全を最優先としていますので、災害や交通状況等が落ち着き、問題なく出社できる状況になってから出社すること、としています。

■BCP時のテレワークをしている様子、シーン、等画像をお寄せください。



<自宅でのテレワークの様子>



<テレプレゼンスロボットを活用した遠隔上司>

◆遠隔上司

本社勤務をしていた財務経理部長が、2015年に家族を介護するため自宅のある秋田へ戻ら

ざるを得ない状況になりました。経理部門の部門長という重要な立場の社員の就業継続がこ  
のままでは困難になってしまうという状況のもと、私たちはテレワークという手段でこの課  
題を解決することに成功しました。

実践にあたっては、業務の可視化と標準化、チームリーダーへの権限移譲などの工夫と、特  
に紙の多い経理部門ではテレワーク推進のキーとなる「ペーパーレス化」を本格的に実施し  
ました。さらに、Web 会議システムに遠隔操作の機能を付加したテレプレゼンスロボットを  
導入し、秋田から遠隔で本社に勤務する部下を問題なくマネジメントしています。テレプレ  
ゼンスロボットの導入により、いつでも声をかけられる・顔が見えている状態をつくること  
で、本社に部長自身が実際にはいなくてもメンバーとつながっているという安心感が生まれ、  
これまで以上にコミュニケーションが取りやすくなっています。